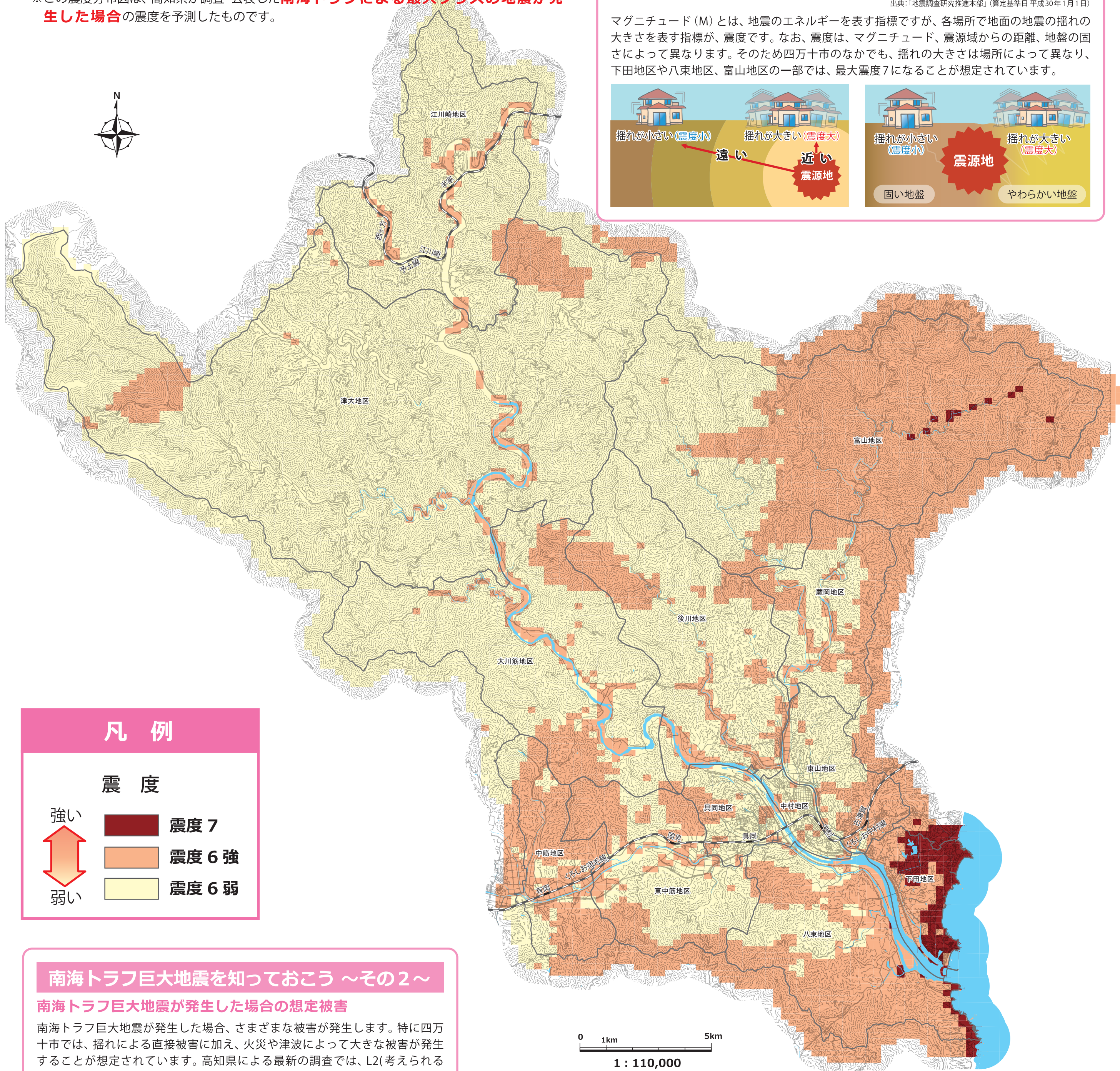


震度分布図

この震度分布図は、四万十市の揺れの強さを示しています。現在の最新の科学的知見に基づき発生しうる最大クラスの地震により推計したものです。まずは襲ってくる強い揺れから身を守ることが大事です。この震度分布図で、自宅周辺がどのくらい揺れるのかを確認して、わが家の耐震化や家の中の家具等を固定する安全対策を行いましょう。(P8の2.地震への備えをご覧ください。)

※この震度分布図は、高知県が調査・公表した南海トラフによる最大クラスの地震が発生した場合の震度を予測したものです。



南海トラフ巨大地震を知っておこう ～その1～

南海トラフ巨大地震の想定発生確率と想定発生規模

南海トラフ巨大地震は、今後30年以内に、70%～80%という非常に高い確率で発生することが想定されています。また、発生した場合には、東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）と同じ程度の大きな地震となる可能性もあります。

	地 震 名	マグニチュード	今後30年以内の地震発生確率
想定地震	南海トラフ地震	8.0～9.0クラス	70～80%
参考	東北地方太平洋沖地震（東日本大震災）	9.0	10%～20% (発生直前における確率)

出典:「地震調査研究推進本部」(算定基準日 平成30年1月1日)

マグニチュード(M)とは、地震のエネルギーを表す指標ですが、各場所で地面の地震の揺れの大きさを表す指標が、震度です。なお、震度は、マグニチュード、震源域からの距離、地盤の固さによって異なります。そのため四万十市のなかでも、揺れの大きさは場所によって異なり、下田地区や八束地区、富山地区の一部では、最大震度7になることが想定されています。



凡 例

震 度



震度 7
震度 6 強
震度 6 弱

南海トラフ巨大地震を知っておこう ～その2～

南海トラフ巨大地震が発生した場合の想定被害

南海トラフ巨大地震が発生した場合、さまざまな被害が発生します。特に四万十市では、揺れによる直接被害に加え、火災や津波によって大きな被害が発生することが想定されています。高知県による最新の調査では、L2(考えられる最大クラス)の地震が発生すると、約3,800棟の建物全壊・焼失被害が発生することが想定されています。

L2地震発生時の
四万十市内の想定被害

建物全壊・焼失	
地震による直接被害	2,380 棟
地震により発生する火災	320 棟
津波による被害	1,100 棟



阪神・淡路大震災（住家被害の様子）
出典：一般財団法人消防防災科学センター

このような建物被害だけでなく、道路寸断や、停電、土砂災害などの被害も発生することが想定されています。

地震発生後は津波が発生

地震発生後は、津波が発生する恐れがあります。そのため、下田地区、八束地区など海岸に近い地域の方は、揺れが発生したら、すぐ津波に対する避難をしましょう。また、海岸から離れていても津波の河川遡上に警戒が必要です。



東日本大震災（津波と津波火災による市街地被害の様子）
出典：一般財団法人消防防災科学センター

東日本大震災からの教訓・後世に伝えたいこと

東日本大震災を経験した被災者から出された主な意見
高知県「南海トラフ地震に備えよき」より

教 訓	避難行動・手段
●大きな揺れを感じたら、すぐに避難する。 ●ここなら津波は来ないだろうと思いつくのは危険。 ●過去の津波経験がマイナスに働くことがあり、経験にとらわれないことも重要である。	●緊急時に持って行く物を準備しておくことが重要である。 ●高いところへ逃げる。忘れ物をして、絶対に取りに帰らない。 ●安全な場所を自分で判断できるようにしておく。